

令和 6 年度 第 3 回旭市総合戦略推進委員会

議事録【要約】

日時：令和 6 年 10 月 31 日（木）10：00～12：10

場所：旭市役所 3 階 政策決定室

○出席者

《委員》

鎌田 元弘 委員長	出	柳 明美 副委員長	出	鈴木 正雄 委員	出
加瀬 哲郎 委員	出	林 千夏 委員	出	伊藤 直美 委員	欠
嶋田 隆 委員	出	奈良 暁子 委員	出	石毛 良樹 委員	欠
佐藤 勝彦 委員	出	梅田 和男 委員	欠	宮内 夏子 委員	出
飯田 周作 委員	出	嶋田 明範 委員	出	加瀬 修一 委員	出
花香 真菜 委員	出	西坂 重信 委員	出	水野 竜也 委員	欠

《事務局》 旭市企画政策課：柴課長、江戸副課長、角川班長、高木、木内

《支援業務受注者》（株）ちばぎん総合研究所 小松、福田、大塚

○配布資料（事前配布）

- ・ 次第
- ・ 資料 1-1 重点施策マネジメントシート
- ・ 資料 1-2 重点施策マネジメントシート
- ・ 資料 1-3 重点施策マネジメントシート
- ・ 資料 1-4 重点施策マネジメントシート
- ・ 資料 1-5 重点施策マネジメントシート
- ・ 資料 2-1 デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業結果（令和 5 年度実施分、総括）
- ・ 資料 2-2 デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業結果（令和 5 年度実施分）
- ・ 資料 3 基本施策評価シート（定住自立圏共生ビジョン掲載事業含む）

○会議内容

1 開会

- ・ 配布資料の確認
- ・ 欠席委員の報告
- ・ 変更委員の報告・挨拶

2 議題

委員長：「(1) 重点施策」について、事務局からの説明をお願いします。

事務局：資料1-1について説明

委員長：ご意見、ご質問ありましたらお願いします。

委員：全国の農業従事者数は116万人から2030年には36万人になることが見込まれます。旭市においても減少が見込まれ、農業産出額590億円は高いハードルだと思っています。野菜の価格については、資材が値上がりしているので、高止まりしていくと思っています。今年の米は、去年まで15,000円くらいだったものが24,000円で皆さん高いと思うかもしれませんが、農業者からすれば当たり前で今までが安すぎたので、農家を辞めてしまった方も多数います。ビニールハウスを建てるのに、10a300坪では、一番高いグレードですと坪10万円で3000万円かかるので、元を取ることは大変です。国や県でも3分の1の補助はありますが、複数建てるには非常にハードルが高いです。私は年金をもらう年齢ですが、ハウスを建てるなら農家を辞めたほうがいいかなと思っています。令和4年の旭市の農業産出額は全国8位で千葉県では断然トップですが、これを維持するためには様々な助成・補助が必要だと思っています。よろしくお願いします。

事務局：令和6年度の目標値590億円の目標値は確かに高いです。平成29年582億円で高かった年が基準値になっているため下がっているように見えますが、全国トップクラスの生産額を誇っている状況です。この額を維持するためには、農家を続けていただける方の確保が大切だと思います。国でも県でも色んな支援策があるので活用しながら維持・拡大、また、今後デジタル技術も活用しながら拡大していけるよう、市としても支援していきたいと思っています。

委員：職員相談室のところですが、相談するのは大体何歳くらいが多いのでしょうか。高齢者の方に聞きますと、体や頭を動かした方が良いので78歳まで働きたいという方もいらっしゃいました。実際、職業相談室に相談に行かれる方は、若い方だけなのでしょうか。

事務局：相談者のデータが手元にはないのですが、65歳以上の方の相談が比較的多いと聞いています。それに対して求人が少なく、マッチしていない現状があるようです。

委員：道の駅のキャッシュレス決済について、道の駅ができてからずっと現金支払いが続いていました。私が数年前に委員になって、初めて発言した内容が道の駅をキャッシュレス決済に対する要望だったと記憶しています。当時の課長から「道の駅の役員なので前向きに検討します」とお答えがありましたが、しばらく現金の取り扱いが続いていて、途中からKirakaカードが導入され、個人的には中途半端だと思っていましたが、現金かKirakaの支払い方法になったので、半ば諦めてKirakaカードを使用していました。この度キャッシュレス決済になって本当

に良かったと思います。ただ、Kiraka カードの取り扱いが終わってしまうので、慌てて利用している状況です。

事務局：キャッシュレス化に向けて、段階的に Kiraka カードを導入して、やはりお客さまの声や今の状況から、ようやくキャッシュレス決済の導入となりました。導入にあたっては、店側の手数料がかかる部分もありますので、その辺も検討のうえ導入となりました。

委員：観光資源創出プロモーション事業に掲載されていたので、お伝えします。ここでも YouTube やインスタグラム広告を実施していると書いてありますが、今年の夏も実施されていました。YOU・遊フェスティバルと七夕まつり、海水浴場オープンと 3 つくらい、同じ広告が 3 か月くらい七夕まつりや海水浴場のオープンが終わってもずっと掲載されていました。それをクリックすると市役所のページに飛ぶようになっていて、文章ばかりのさみしいページでした。そこで思ったのが、今年 4 月に観光物産協会のホームページをリニューアルしたときに、外部に依頼しなくても自分たちで特設ページを作れる仕組みにしてあるので、夏の特集であれば、きれいな写真や文章を入れて自分たちで作れる仕組みがあります。SNS 広告を行うにしても、リンク先を観光物産協会にしてみるとか、七夕だけの特集ページを作るとか、終わったものは掲載せず、旬な広告を SNS や YouTube で発信するような施策は令和 6 年度以降で検討していただければと思いました。道の駅に関しては、WEB サイトのアクセス数や口コミを見ていただくと、海鮮のニーズが高いなど消費者のニーズがわかり、施策が打てると思いますので方針として加えていただけるとより効果的だと思いました。

事務局：ホームページの見せ方は大切だと思います。文字だけだとみてもらえませんが、終わったものが残っていることは見る側にとってストレスになるだろうと思います。いただいた意見は担当課にも伝えます。また、道の駅については、担当課である企画政策課で考えたいと思います。

委員：職業安定のところで、私は仕事上のトラブルや悩み事を伺うことが多いです。そのなかで、職業紹介があって仕事が決まることは良いことですが、そのあと定着をしていくことがもっと大事だと思っています。定着していくなかで、法改正が頻繁に行われていて、残業上限規制、育児・介護休業など頻繁に法改正があるなかで、大企業では担当部署があり情報を得ることができますが、中小企業では自分がアンテナを張り続けないと受け取ることが難しいです。中小企業が法改正に適用すれば働きやすい環境が作られていくため、法人開設を増やしていくのであれば、新しく開設された法人に対しても、法改正の周知などを例えば商工会など中小企業に近いところから発信していただければ働きやすい環境が整備されやすくなっていくと思いました。

委員：若い方で法人、自営業を始める方は多くいらっしゃいます。青年部の部員が減ってきている面もありますので、インスタや SNS を使って発信している状況です。同じ年代で事業者が増えると心強いので、青年部として自営業を増やすことは目標でもあります。

事務局：仕事の定着は大事で、昨今の働き方改革により残業規制など働く側として働きやすい環境にな

ってきていると思います。情報提供について詳しくわかりませんが、おそらく商工会や商工観光課になるのかなと思います。意見として担当課に伝えます。

若い事業者が増えることは、旭市の活性化につながります。商工会でも創業セミナー、商工観光課でも取り組みがありますので、引き続き支援して起業につながってほしいと思います。

委員長：他の項目もあるので一旦閉じて次に進ませていただきます。

事務局：資料1-2について説明

委員長：ご意見、ご質問ありましたらお願いします。子育て中の方、出会い関係で活動されている方がたくさんいらっしゃいますがいかがでしょうか。

委員：婚活イベントでは、男性会員は、食事をしてイベントに行く場合にどうしても若い年齢の方に偏る印象があります。実は以前、公務員と私の知り合いで5対5の出会いの場を設けたところ、偶然だったかもしれませんが3組まとまりました。個々で話をするより全体で話をする形式を取っていました。最近、イベントに拘りすぎているような気がします。また、参加者から意見をいただいたときに、「コンシェルジュの方は全員結婚しているんですね」と聞かれたことがあります。「これから結婚しようと思っているので、既婚者のほうが相談しやすい」と言われました。どの人が結婚しているのかわからないので、その辺も考える必要があると思います。また、旭市の女性は参加者が少ないです。顔を知られるのが嫌なのだそうです。オープンに嫌がる方が結構いらっしゃるようです。このところ、おひさまテラスで婚活イベントを開催することが多いですが、やはり女性の参加者が少ないです。

それと、子育てについて、私のこどもは3人が仕事の都合で市外にいますが、市原市に住んでいる娘から、旭市は結婚してこどもが生まれるまでの補助が手厚くていいねと言っていました。もっとPRした方がよいと思います。ただ、過ごしやすいかとなると、高齢化社会になっていて昔はこうだったからこうだと上から言われるのは嫌だという意見もあるみたいです。それ以外のことであれば、子育てには最高だと周りの方が仰っているようです。

委員長：関連してご発言があればお願いします。

委員：毎回言わせていただいておりますが、旭市の子育て支援は、受けている側としてはとても充実していると思っています。おむつ券は評価がDになっていますが、本当に有難いと思っています。現実的に出生率が下がっているの、この数字は致し方ないと思っています。なので、あとはPRの仕方なのかなと思います。自分の土地をこんなに褒めるのも申し訳ないですが、住んですごく住みやすいと思うし、衣食住には事足りているし美味しいものはいつでも食べられるしPRなのかな。テレビを見てみるとお隣の香取市は撮影で使われていたり、千葉日報の地方版を見ると、銚子は銚子電鉄が出ていたりPR要素を多数持っていて紙面に登場する回数が多いです。旭市はイベントがあっても取り上げてもらえないのか、魅力的なものがないのか分からないですが、出ている回数が少ないと感じています。外部向けのPRとしてテレビや新

聞のほか、今は SNS が一番有効で使いやすいと思っていますが、テレビや新聞は多くの方が目にするものなので、そこで住みやすい場所であることは多くの方に知ってもらいたいと思っています。

1 点、家庭支援学級について、私は 1 年生のこどもがいて、下の子の預かりは年齢が決められていて、受け付けてもらえないことが多く、参加のハードルが高いと感じています。平日は仕事、土日は夫や祖父母がいないと参加できず、講義内容が魅力的であっても、出たくても出られないことがあるので、下の子を預けられる環境を整えていただくと助かります。

委員：今、市で計画を立てていますね。それが実現すると、例えばご自宅で見てもらうとか、ケアしてくださる方のお宅で見てもらうことができると思います。ただ、1 時間いくらか費用がかかるかもしれません。

委員：私は銚子から匝瑳まで色々なところを移動して歩いていますが、おむつ券はどこに聞いてもいいねと言われます。こちらは大々的にアピールしてもらっていいのかなと思います。

市 P 連でも、家庭教育学級の参加率が低いのはなぜかと話が出ていました。開催の日程で、参加される方の都合がつかない理由が大きかったようです。でも、楽しそうだという意見は出ていたとのことでしたので、やはり日程調整という点は市 PTA 連絡協議会でも今後考えていけるようまた話してみたいと思います。

事務局：貴重なご意見ありがとうございます。担当課が聞いたら考えるきっかけになると思いました。まずは、おむつ券、子育て支援の PR ですが、市外に住んでいる方に最初に旭市を知っていただく取り組みということで、ロケ地を誘致して旭市を知っていただく取り組みを行っています。旭市を知ってもらったなかで、市のホームページを見ていただくと子育て支援に特化したページがあります。結婚前から出産・子育てなど、高校生くらいまでステージ別に紹介していますが、もっとわかりやすく伝わるようリニューアルを考えています。家庭教育学級について、魅力的だという意見はいただいているとのこと、預かり保育など受ける側の環境を整えていただければ参加者が増えてくると意見があり、担当課に良い意見をいただいたと思います。

委員長：次に進めさせていただきます。

事務局：資料 1-3 について説明

委員：ふるさと納税について毎回伺っていますが、寄付額が令和 4 年の 1 億から 5 年の 2 億に倍増はとても嬉しいことだと思いました。前回、返礼品の一番人気はハマグリだと伺いましたが、現在も変わらないでしょうか。

また、農業算出額は全国 8 位で、その 6 割が野菜と豚ということで、私も調べてみたところ、豚肉は全国 2 位です。ふるさと納税の返礼品はその地域の特産品や、地域の事業者が製造する品が対象となっていますが、ふるさと納税サイトで旭市の返礼品一覧をみると、豚肉が全国 2

位というのが信じられないくらい豚肉の取り扱いが少ないです。また、釣りが趣味の知り合いによると、旭市には有名なルアーメーカーがあり、他自治体ではルアーの返礼品がそれなりに人気で、ふるさと納税限定のデザインなどもあるそうです。ふるさと納税の返礼品はどのように募集・選定しているのでしょうか。市から積極的な掘り起こしが必要なのではないかと思っています。また、他の自治体では、返礼品と一緒にお礼状や自治体のパンフレットが入っていたり、自分が寄付した数年後に「あなたの寄付金を活用させていただきました」とパンフレットやハガキが送られてくることがありますが、旭市でもそのような取組があるのでしょうか。

事務局：ふるさと納税寄附額令和4年の1億円から令和5年の2億円の増加は、テレビ番組で旭市の返礼品であるハマグリが紹介された効果のようです。また、豚肉やルアーもあれば良いとのことですが、返礼品の選定についてはこちらからお声がけもしますが受け身が強いかたちになっています。引き続き魅力的な返礼品を増やすことが寄付金の増加につながるので力をいれていきたいと思いました。パンフレットや報告書は、現在実施していないので、今後検討していきたいと思っています。

委員：ホームページのアクセス件数について、この指標を設定したときは移住・定住のサイトがなかったのも、旭市ホームページのアクセス件数が指標に設定されていますが、数字を見てみると、トップページとコロナ感染状況とライブカメラがほとんどなので、目標である移住・定住への流れがつくられているのかわかりにくいと思います。去年、移住・定住のホームページを制作しましたので、アクセス状況や更新状況を令和7年度以降の指標に設定できるかなと、そこでどれだけ情報発信するのか、今のところアクセス数1~2位は助成金・補助金ということもわかっていますので、アクセス数など指標に組み込んでみても良いと思います。

公式LINEについて、前回もお話させていただきましたが、指標を友達の数にしてしまうと永遠に増え続けるだけなので、ブロックされている割合なのか、移住・定住関連の情報を欲しい人をどれだけ増やせるのかもできると思います。LINE全体というよりは、この目標に沿ったLINEの活用の方法を指標にするとより効果的だと思います。

委員長：他にご意見のある方はいらっしゃいますか。それでは、次に進めさせていただきます。

事務局：資料1-4について説明

委員長：ご意見、ご質問ありましたらお願いします。

委員：65歳以上の新規要介護認定者の平均年齢の達成度がCとなっており、男性の要介護の認定が多くなっていることであるが、退職した後に脳血管疾患であったり心疾患であったり男性で70歳あたりから介護を受ける方が多くなっているということが審査会のなかでの印象としてあります。相談件数については、包括支援センターが基幹型もあわせて4箇所ありますが、相談できる場所が増えるとともに周知により、相談件数が令和4年度は目標値に達成していて6,864件でS評価です。本当に解決が困難な方の事例の相談が増えています。相談件数が多い

ことを達成しているとしているが、相談があるイコール困難な方が多い、相談窓口が増え、相談が多いことを良しとする評価は疑問があります。

認知症サポーター等養成講座事業では、評価で伸び悩みとなっているが10/19にRUN 伴（らんととも）という認知症の啓発活動でイオンタウン旭を起点として、オレンジを身に着けて市内のマラソンやリレーするイベントがあり、市長も参加されていたがご存じの方はいらっしゃるのでしょうか。介護は、本当に必要になってから、家族が認知症の立場になってから初めて勉強をする方が多い。事前に興味がある事柄ではないため対応する高齢者福祉課や社会福祉課は大変だとも思う。要介護認定、認知症になってからの旭市の取り組みはとても充実しています。一方でその前の勉強段階でいえば、旭中央病院でも、リハビリや病気、感染症の勉強会を各介護施設に向けて発信している。医療と介護では最近では会議や合同研修もとても多いが、このような取り組みが展開されていることが旭市のホームページでは周知されていません。事業者がこのような活動をしていることを市民の方に認知いただくと認知症サポーターの評価も変わるのではないかと思いますので検討いただきたい。

委員：医療と介護の連携は、コロナ禍がきっかけとして深まった部分があり、継続してオンラインも活用しながら続けており、そういった点は今後災害時などにも活かしていけるのではないかと考えている。

同僚とデマンドタクシーのサービスについて、登録すれば500円で中央病院やみらいあさひに行けるのはすごく良いサービスだと話をしていた。利用者の周知が進んでいないようであれば病院にポスターに貼ったらどうかという話も出たため、後日ご相談させていただければと思います。

委員：我々消防団も担い手がいない現状があります。消防団は大変なイメージがあり、なかなか入団いただけない。そのようななかで、今年度より女性消防団員に入っただき、来月の産業まつりにおいて制服で活動いただくことなどを通じて何とか広げていきたいと思っています。

自主防災組織については、毎年区長がかわってしまう区もあるのでなかなか広がっていかない点が課題かなと思います。

今年度、夜間に試験的に予防啓発のために市内を巡回する活動をしています。来年度はより広範囲にできればと考えています。

事務局：相談件数が多いが良いのかという議論は内部でもありました。相談件数が少ないということは表に出てこないで籠ってしまうという部分がある。件数が多いということはそれだけ対応ができていているという認識がある。担当課でも同じ考えはもっているため検討させていただきたい。認知症サポーター事業については、役所でも高齢者福祉課で夏場はオレンジ色のTシャツ、今はオレンジ色のリングでPRに努めており、周知されればと考えている。

デマンドタクシーは区に加入いただいている方には冊子を配布している。公共施設などでは設置しているが、病院でPRいただけるということであれば連携させていただきたい。

消防団の担い手がいないということで女性消防団の方にPRいただくことも一歩であると考えています。地域防災は区長の変更もあり、必要ではあるが立ち上げる所までが難しくなっています。立ち上げていただければ動くと思うが、立ち上げの支援についても担当課で行っている

ため引き続き何か課題があれば相談いただきたい。夜間パトロールは大変ご苦勞をおかけしていると存じますが市民としては安心につながっていると思います。ありがとうございます。

委員：私の会社では以前、子会社でタクシー会社を経営しており、デマンドタクシーにもかかわっていた。最近デマンドタクシーの運転手の方と話す機会があり、非常に忙しいと言っていた。利用が増えていることは望ましいと思うが、忙しくて休む暇もないくらい利用者が多いということはその裏側に利用したくても利用できない利用者がいるのではないかとも思うが状況は把握されていますでしょうか。

雇用対策協議会のメンバーでもあるが、旭市全体の雇用問題には疎い部分があるが、自身の会社の雇用問題としては若い運転手が入ってこないというのは業界全体として悩ましい部分であり、他の業界も同様の状況だと思います。

事務局：デマンドタクシーは、はっきりとした数字はないが、事前に予約いただくので、忙しいからと予約はとれなかったケースはそれほどないと認識しています。運転手さんもお忙しとは思いますが、昼の休みはあり働き方にも配慮はしている状況です。

雇用対策は、運転手の方も含め若い方がいないという点はどの業態も同様であると認識しており、若い方の就労の場、機会の確保に尽力いただいているのが雇用対策協議会と存じますので引き続き市と雇用対策協議会が連携しながら雇用の場の確保に努めていきたいと思っています。

事務局：資料1-5、資料2-1について説明

委員長：私自身もみらいあさひ協議会に参加しているため自己評価になってしまう。成績上は良いが市民の方々からみてどのようにみえるのかについて私自身も気になっている。奈良委員も協議会に参加いただいているが補足があればいただきたい。

委員：みらいあさひは不安もあるなかでのスタートであったと思うが、最近では駐車場も混みあっており、新たな人の流れや賑わいがみられます。患者、職員にとってもメリットが多く、当院は敷地内に多くの医師や看護師が居住する宿舎があるため、医師の招へいや看護師の採用活動においても追い風になっている。病院でも院内で実施していたイベントの一部をおひさまテラスで開催しており、昨年より市民健康講座、病院まつりをおひさまテラスで開催し好評であったため今年度もおひさまテラスで開催している。今後も市と連携しながらまちづくりに貢献できればと考えています。

委員長：大学としても学生の活動の場として取り組んでいる。気になっているのが、建築資材が高騰しているなかで特別養護老人ホームの建設を進めていただいておりますが、今後住宅地の整備を進めるなかでも新たな課題として当時は想定できなかった建築資材の高騰や技術者が集まらないといった点がある。その点なども含め、ハードで整備できない点はソフトで補っていければ良いのではないかと個人的には思っている。

委員：KPI の 2 番目のコミュニティ数の 45 団体は、具体的にどのような活動をされている団体でしょうか。

事務局：みらいあさひ内でサークル活動をされている団体をカウントしています。ダンスなども多いが工具を利用している木工のクラブもある。他にも編み物、読書などを行う方がいらっしゃる。

事務局：資料 2-2 について説明

委員長：2-2 については特にないようですので、2-1 と 2-2 の結果で妥当ということによろしいでしょうか。特にご異論ないようでございますので委員のご意見として事務局でご参考になさってください。

3 その他

委員長：「(1) 基本施策（旭市定住自立圏共生ビジョンの評価含む）」について、事務局からの説明をお願いします。

事務局：資料 3 について説明

資料については、お持ち帰りいただきご意見がございましたら、11/8（金）までにご意見シートにてご提出ください。

委員長：全体を通してご発言いただきたいと思います。

委員：委員の方の発言が活発で本気で取り組んでいると感じました。旭市出身の私でも、旭市の良いところや良い取り組みをよく分かっていなかったなと本日初めて知った。地元出身の私でも分からないことを県外の移住される方が知るということは難しいため、まずはそのような所からなのかとも感じました。ホームページの内容を充実することも重要であるが、まずはホームページを開けるきっかけをつくる必要と感じました。

香取市ではミスあやめという事業を展開しているが、3 名のなかの一人がインフルエンサーの方で積極的な情報発信を期待しているといっていた。テレビのロケの後は 1 か月くらい来街者が増えるという現象がおきるため、テレビやインフルエンサーなど、どのように露出していかを考えることが重要と感じた。

私のように市外に出た者が戻ってこられれば最高であると思いますので、戻って来たくくなるようなまちに向けて協力させていただきたい。

委員：資料 1-1 から 1-5 に共通する点として、(2) 施策に関する検証の部分で目標指標の実績値と状況の理由等を記載いただいているが、資料によっては指標の数字の説明に留まっている。また、

状況の理由の部分で市の施策ではない外的要因の説明に留まっている項目が散見される。例えば、地産地消プロジェクトでいえば、④の KPI の農業産出額の説明として、野菜の価格回復、豚肉や鶏卵の価格上昇といった外的な要因の説明に留まっている。産出額の向上のために市でも様々な施策を展開していると思うが、どのような取り組みをして、それが KPI にどのように影響したかという記載が少し欲しいと思う。道の駅では、コロナの位置づけが 5 類となり観光客が戻ってきたいという外的要因も書かれているが、下の部分では酒類の販売やキャッシュレス決済といった取り組みを記載いただいている項目もあるため、市の取り組み内容を記載いただかないともったいないと感じました。

また、PDCA サイクルの A のアクション部分になるが⑤の施策全体の説明が関係課ごとに記載されているため、どの施策あるいは事業に対する記載なのかが分かりづらい印象がある。例えば、企画事務費（成田空港）で進捗状況が停滞となっているが、停滞となっている部分を今後どうしていくかといったことが関心として出てくるが、⑤施策全体の企画政策課の方に記載されているが繋がりが資料をみた際に少し分かりづらい。その辺を市民の皆さんに上手く伝えられないかという感想を持った。

事務局：香取市はインフルエンサーがいるということでありましたが、旭市では今のところそういった状況にございませんが、委員の皆さんも含めまして是非発信の数を多くしていきたいと考えています。

記述の部分については、外的要因だけではなくというご指摘につきましてはご指摘の通りと存じますので検討させていただきます。シートの関連付けについては見やすいように手直しはしていきたい。

委員長：検討事項は以上となりますので、進行を事務局にお返しします。

事務局：次回の委員会は 12 月 16 日（月）を予定しています。内容につきましては次期総合戦略についてご意見をいただきたいと存じます。

事務局：本日は長時間に渡り、ありがとうございました。本日いただいた皆様からのご意見を施策に反映するように努めて参ります。以上で本日の会議を閉じます。ありがとうございました。

4 閉会